

高校生ができる地域貢献による地域の活性化

～ハロウィンかぼちゃ（観賞用かぼちゃ）を活用した地域の活性化～

山口県立下関北高等学校

1 はじめに

平成30年4月、響高校と豊北高校が統合し、下関北高校が開校しました。今年度は下関北高校の4期生が入学し、現在は190人の生徒が学校生活を送っています。本校がある下関市豊北町は、豊かな自然と角島大橋など注目を浴びる観光スポットに恵まれる一方で、極端な人口減少、その大きな要因である若者世代の人口流出や少子化、これに伴う地域の活力の低下が大きな課題となっています。

こうした状況の中、本校は、下関北部地域唯一の高校としての期待に応えるため、多様な進路希望に対応するとともに、地域社会の維持・発展に貢献できる人材の育成や高校生ができる地域貢献による地域の活性化といった社会的使命を有しています。そのため本校では、「地域と連携・協働する教育活動の推進により、郷土への愛着と誇りを育むとともに、未来社会に対応できる実践力の育成」をめざす学校の姿として掲げ、地域と連携した様々な取組を進めています。

令和3年度は、まちづくりの推進力となる高校づくりをテーマに、豊北地域で生産振興の取組が進められているハロウィンかぼちゃを活用した地域の活性化に取り組むこととしました。

2 活動の概要・実績

近年、若者の花への関心の低下に伴い、購買量も減少しており、消費拡大に向け、県や花卉農協等は、花育などによる、子どもたちへの“花のある生活空間の習慣化”の取組を進めています。

一方、観賞用のかぼちゃは、ハロウィン文化の浸透により、市場規模は拡大の傾向がみられ、その消費トレンドは、商品の機能重視のモノ消費から体験型のコト消費へ移行しています。

また、県内では、花卉農協によるランタンづくり教室等が行われ、「ハロかぼ」の知名度は向上し、下関市内からの生産供給数が不足しています。近年は、観光など他産業との協働気運もみられます。

さらに、「ハロかぼ」は、露地で省力生産可能であり、花卉農家に加え、野菜農家等の新たな収益補完作物として作付けが可能であり、ランタンのほか、ビール、焼酎、菓子等の加工原料としても活用可能であることから、将来性のある植物です。

こうした中、高校生がハロウィンかぼちゃを実際に栽培し、子ども向けのランタンづくり教室の開催や、地域のイベントにおけるランタンを使ったライトアップなど、「ハロかぼ」の消費拡大に向けたPR活動を行うことは、「ハロかぼ」の生産振興や地域の活性化につながるだけでなく、異年齢の交流を生み出し、教育的効果も期待できることから積極的に取り組むこととしました。

【1】ハロウィンかぼちゃの栽培（6月～10月）

6月30日（水）には、学校内の畑を活用して、ハロウィンかぼちゃの苗作りにチャレンジしました。植え付けた種は、観賞用かぼちゃ「ジャイアントカボチャ」13ポット、「スモールシュガー」39ポット、「アトランチックジャイアント」14ポットの3種類66粒です。本校の卒業生で、下関市豊北町神田上のバラ農家、(有)司ガーデンの中司武敏さんから植え付けの方法についても教えていただき、そのことを思い出しながら種を植えました。

第一歩としてJRC部の生徒は、種まき用の土をポットに入れ、深さ1cmの穴に一晩水につけておいた種を一粒一粒丁寧に植えました。植えたところを軽く手で押さえ水やりをして最初の作業は終了です“早く芽を出せかぼちゃの種”の思いで、JRC部の生徒は毎朝水やりを行いました。7月2日に丸太と板で作った棚の台の上にポットを移動させて、ナメクジ対策をしっかりとしました。その思いが通じたのか、7月5日頃には元気のいい双葉が育ち、7月13日ごろには本葉が育ちました。JRC部の生徒が思いを込めて毎朝水やりを行った成果が現れています。



第二歩として、7月16日に学校の畑に植え替える作業を行いました。畑には雑草がたくさん生えていたので、除草作業を丁寧にを行い、肥料をあげて畑を耕しました。ポットを等間隔に置いて、本葉になったかぼちゃの苗を植えていきました。無事に花を咲かせ実がなるよう毎日お世話をしていましたが、8月

の長雨が原因で10月の収穫時期になってもかぼちゃの実がなかなかできませんでした。今年は校内のかぼちゃ栽培は2年目で、ナメクジ対策等を行い順調に思われましたが、結局実がつかない結果となり、ハロウィンかぼちゃの栽培の難しさを思い知らされました。



【2】ハロかぼランタンづくり研修会（10月25日）

10月25日に（有）司ガーデンの代表取締役で関の花振興協議会の中司武敏さんを講師としてお迎えし、「ハロかぼランタンづくり研修会」を実施しました。研修会には本校のJRC部、総合文化部の22人が参加しました。

研修会では、最初に中司さんから、なぜ、今、豊北町でハロウィンかぼちゃのランタンづくりに力を入れているのか、ハロウィンの起源、かぼちゃの種類、かぼちゃを使った楽しみ方や現在の取組、そしてランタンづくりの手順とポイントについて



講習を受けました。また今年度は、下関市でのハロウィンイベントの発展に向けて、新たに「クジラの街下関」のクジラとのコラボでPR力をアップする計画を進めており、クジラのロウソクによるハロウィンキャンドル、SDGsを意識したクジラの肥料によるカボチャ花壇（イベント終了後）などの取組を行う予定であると説明がありました。

講習のあとにハロウィン用のかぼちゃを使ってランタンを製作しました。ランタンづくりマイスターの資格を持つ2・3年生は、手際よくランタンを完成させていきました。1年生は初めてランタンを作りましたが、先輩に作り方を教えてもらいながら、かぼちゃに油性ペンで下書きをし、引廻しのこぎりやスプーンを使って思い思いのランタンを完成させました。



【3】滝部駅ハロかぼ装飾プロジェクト(10月28日～11月1日)

滝部駅からの通学路に賑わいを取り戻すためのプロジェクトの一環として、高校生が通学の拠点としてお世話になっている滝部駅にハロウィンの装飾を行う「滝部駅ハロかぼ装飾プロジェクト」を実施しました。



制作は総合文化部が中心になって行い、麻ひもを使ったハロかぼを作成し、クリスマスで使用するツリーにハロウィンの装飾を施し、10月28日に滝部駅舎に設置しました。



【4】 つのしまハロかぼ夢フェスタでライトアップ（10月31日～11月1日）

角島灯台、角島灯台記念館（旧官舎）が国の重要文化財に指定され、令和3年12月に1周年を迎えます。下関市はその記念として、灯台記念日（11月1日）にあわせ、角島灯台公園周辺において、下関北高校と連携して「灯（あかり）」のイベントを実施し、観光振興、地域振興につなげるとともに、地域団体の協力を得て、にぎわいを創出する「つのしまハロかぼ夢フェスタ」を10月31日、11月1日に開催しました。

この2日間、下関北高校は下関市役所豊北総合支所や地元の花弁栽培農家の（有）司ガーデンと連携し、ハロウィンかぼちゃのランタンの展示やライトアップ、麻ひもを使ってハロウィンかぼちゃに見立てたオブジェで装飾した「かぼタワー」を設置しました。

10月25日から1週間、本校において、JRC部と総合文化部の1年生から3年生までの生徒28人が総力を結集して、

（有）司ガーデンの中司武敏さんが生産された100個のハロウィン用の観賞用かぼちゃでランタンを作りました。10月29日の放課後にJRC部員が「ハロかぼランタン」の飾りつけを、10月31日の午前中に総合文化部員で「かぼタワー」の装飾を行いました。かぼちゃのランタンライトを入れ、イルミネーションとともに点灯し、ライトアップもされて、幻想的で美しい光景が広がりました。



3 取組の成果

地域の方からは、「高校生に助けてもらっている」「今度は何ができるのか楽しみ」といったお褒めの言葉をいただき、地域の活性化や地域に貢献する活動を通して、生徒の自己有用感や他者肯定感、学校肯定感、地域肯定感を育み、「ところ」や「ひと」と向き合う取組になっています。本年度は下関市商工会青年部や豊北町むらおこし物産振興協同組合と連携した地域貢献活動も行い本校のネットワークの広がりを感じています。

また、生徒自身が、自分たちにできることをやっといこうと考えるようになり、小学校の代表児童、中学校及び高校の生徒会が集い、地域を活性化するための方策についてグループワークを通して考える取組を1月6日に実施しました。

4 今後の展望

これまでの取組を推進・検証し、その成果や課題を本校の教育活動に反映させることにより、中山間地域の高校に求められ、そうした環境にある高校だからこそ実施可能な地域貢献型のキャリア教育を推進しこれを本校の特色として打ち出していきたいと考えています。